

中堅・中小 ものづくりの現場

「女性に任せる」成長の源

ものづくりの現場で女性をどう活用するか。女性の能力を最大限発揮できる環境をどう整えるか。取り組みで先行している中堅・中小製造業の多くに共通するのは、現場は男性のものと決めつけず、「任せる」「評価する」といった姿勢だ。成果は企業の収益や成長につながる。(1面参照)



メトロールは現場の気づきを生かし、作業効率を高めている(東京都立川市)

位置決めセンサー メトロール

「気づき」提案、年200件にも

工作機械などに組み込む精密位置決めセンサーを製造するメトロール(東京都立川市)は、パート女性が成長の源泉だ。工場では数十人の女性がピンセットやペンチなどを使い、1千分の1ミリ単位の精度で切削や組み立てを施していく。1万点の部品から1千種の製品

を作り上げる。

年間約18億円を売り上げる同社は従業員130人のうち、パート女性は半分以上を占める。役割は組み立て作業だけではない。製造現場の改善も担うのだ。独自の改善シートに「気づき」を書いて提出してもらう。

「作業者が持ちやすいように治具の形を変えたほうがいい」「この検査に意味はあるのでしょうか」。新たな治具作製や検査の簡略化など、提案は年200件超にもおよぶ。文字だけでなく

んは自動のねじ返し装置を提案した。センサーを構成するねじの凹凸にナットがうまく回るかを調べるためのもので、凹凸

に接着剤などが付着しているのを防ぐ。「自動鉛筆削り機のイメージで作っても良かった」(松沢さん)。ねじをコロコロと手で回していたときより、時間と手間は大幅に軽減された。

「人も企業も漫然とやっているだけでは進歩しない。どんな仕事でも改善が必要」と強調する。

カラーイラストで丁寧に説明するなど「本気度が伝わってくる」(松橋卓司社長)。シートは提出翌日には幹部が決裁、採用率は9割を超える。新たな治具などはすぐ設計部門が開発に着手する。

改善に意欲的なパートを定期的に表彰する制度もある。積極的に提案すれば評価が上がって給与にも反映される。松橋社長は「現場の気づきを無駄にしたくない」と指摘。

「人も企業も漫然とやっているだけでは進歩しない。どんな仕事でも改善が必要」と強調する。